

平成 28 年第 7 回にかほ市議会定例会会議録（第 3 号）

1、本日の出席議員（ 19 名 ）

2 番	渡 部 幸 悦	3 番	佐々木 雄 太
4 番	佐々木 春 男	5 番	奥 山 収 三
6 番	伊 藤 知	7 番	伊 藤 竹 文
8 番	飯 尾 明 芳	9 番	市 川 雄 次
10 番	佐々木 弘 志	11 番	佐々木 平 嗣
12 番	小 川 正 文	13 番	伊 東 温 子
14 番	鈴 木 敏 男	15 番	佐々木 正 明
16 番	宮 崎 信 一	17 番	加 藤 照 美
18 番	佐 藤 元	19 番	佐 藤 文 昭
20 番	菊 地 衛		

1、本日の欠席議員（ な し ）

1、職務のため議場に出席した事務局職員は次のとおりである。

議 会 事 務 局 長	佐 藤 信 夫	班 長 兼 副 主 幹	加 藤 潤
主 事	土 井 絵 里 香		

1、地方自治法第 121 条の規定により説明のため出席した者は次のとおりである。

市 長	横 山 忠 長	副 市 長	須 田 正 彦
教 育 長	齋 藤 光 正	総 務 部 長 (危機管理監)	齋 藤 洋
財 務 部 長	佐 藤 正 春	市 民 福 祉 部 長 (福祉事務所長)	伊 東 秀 一
農 林 水 産 建 設 部 長	佐 藤 均	商 工 観 光 部 長 (地方創生政策監)	佐 藤 克 之
教 育 次 長	齊 藤 義 行	ガ ス 水 道 局 長	佐 藤 次 博
消 防 長 兼 消 防 署 長	伊 藤 伸 司	会 計 管 理 者	浅 利 均
総 務 部 総 務 課 長	佐 藤 喜 仁	企 画 課 長	佐々木 俊 哉
財 政 課 長	佐々木 俊 孝	防 災 課 長	佐 藤 正 之
象 潟 市 民 サ ー ビ ス セ ン タ ー 長	田 中 義 樹	金 浦 市 民 サ ー ビ ス セ ン タ ー 長	佐々木 善 博
仁 賀 保 市 民 サ ー ビ ス セ ン タ ー 長	加 藤 淳 子	商 工 政 策 課 長	齋 藤 和 幸
観 光 課 長	藤 谷 博 之	消 防 次 長 兼 警 防 ・ 予 防 課 長	本 間 徳 之

1、本日の議事日程は次のとおりである。

議事日程第3号

平成28年12月13日（火曜日）午前10時開議

第1 一般質問

1、本日の会議に付した事件は次のとおりである。

議事日程第3号に同じ

午前10時00分 開 議

●議長（菊地衛君） ただいまの出席議員は19人です。定足数に達していますので、会議は成立します。

日程に入る前に報告します。地方自治法第121条の規定に基づく出席者は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問については、申し合わせにより通告外の質問は認めておりませんので、注意してください。

順番に発言を許します。

はじめに、2番渡部幸悦議員の一般質問を許します。2番。

【2番（渡部幸悦君）登壇】

●2番（渡部幸悦君） おはようございます。質問に先立ちまして、私の一般通告書の方のですね字句の方の訂正の方をよろしく願いいたします。2ページ目のですね④番のところ、「お仕事支援センター」業務による企業件数、この企業の「企業」の字が間違っておりました。起こす業の起業でございます。おわびして訂正をいたしますので、よろしく願いいたします。

それでは、一般質問の2日目、どうぞよろしく願いいたします。

「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について質問をいたします。特に私が質問したいのは、産業振興による仕事づくりというふうな点にて中心的に質問をさせていただきます。

昨年11月に策定した、にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略から約1年が経過しようとしております。また国では、今年の6月の2日に、まち・ひと・しごと創生基本方針2016が閣議決定されております。1年前、当市において策定された、にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、5年の計画でPDCAを回し、明確な数値目標であるKPIを掲げております。あれから1年、約5分の1が経過したわけですが、その進捗状況についてお尋ねをいたします。

(1)です。産業振興による仕事づくりで掲げている雇用創出は、平成31年度までの5ヵ年分の累計で330人という数値目標が掲げられておりますが、1年経過した現在の数値はどうなっていますか。

●議長（菊地衛君） 市長。

【市長（横山忠長君）登壇】

●市長（横山忠長君） おはようございます。それでは、渡部幸悦議員の御質問にお答えをいたしますが、(1)の産業振興による仕事づくりで掲げている雇用創出並びに(2)のK P Iの各項目については、担当の部長からお答えをさせます。

●議長（菊地衛君） 答弁、商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） おはようございます。それでははじめに、(1)産業振興によるまちづくりで掲げている現在の雇用創出数の御質問についてでございます。

にかほ市総合戦略では、基本目標の一つとして産業振興による仕事づくりを掲げ、新たな雇用の場を創出する市内産業の振興を図っていくこととしております。昨年11月末に総合戦略を策定以降、現在まで、市の施策に関連し雇用創出として確認できたものが63人となっております。内訳は、製造業関連が57名、起業・創業関連が2名、農業関連が4名となっております。以上でございます。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） 330人という目標、これを5分の1で割りますと、この1年で実は66人、それに対して今63人というふうな回答でございました。なかなか数字的には非常に目標に近い数字なのではないかなというふうにして思っております。

そこでちょっと確認ですけれども、これは、この製造業で57名というふうな数字でございました。この雇用っていうのは、その新しい産業創出による雇用なのでしょうか、それとも単に景気がよくなったからとか、あるいは雇用状況、そういうふうな環境が改善したからというふうな数字なのでしょうか、よろしくお願ひします。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） その分についての御質問にお答えしたいと思います。

最初に、工業振興条例の設備投資助成の従業員名簿のうち、平成27年11月以降入社した人が49名、雇用支援対策助成金が4名、オイルシールの純増が5名と、その内訳となっております。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） それは単なる就業、新しい雇用っていうか就業数ではないのかなっていうふうにして思います。計画はあくまで、産業振興によるまちづくりによるもの、つまり基本方針に掲げる成長分野への事業展開、あるいは農林水産業の成長産業化、産業としての観光推進による、そういうようなものの新規雇用創出であるべきであって、いろんなそういうような普通の状況での雇用状況が好転してからというふうな数は、僕は入れるべきではないのではないかなというふうにして思っております。なぜならば、総合戦略というのはK P Iという具体的な数値目標を掲げ、P D C Aサイクルによる検証を行っていくというふうなことが最後のページにも記されております。つまり今の現状をきちんと、そのある程度の線分けをして考えていかないと、この戦略が正しいのかどうかというふうなことができなくなってしまうのではないかなというふうにして思うわけですね。別に僕がこの数字がですね、いいとか悪いとか、そういうようなことではないですし、その66つ

というふうな、5分の1でね、単純に割った計算での66ってというふうなものに対して、非常に63という数字をされているってというふうなことについては、僕はそれはある一定の評価はしたいなというふうにして思っております。

で、今のその状況の中で、何がよくて、何が悪くて、そして今後、残り4年間の中でのその課題というのは、どういうふうなものがあるというふうにしてお考えですか。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） ただいまの御質問でございますけれども、何がよくてってというのは、今、市の方で振興条例等ありまして、この規模拡大で雇用が創出されるというふうなことが一ついいことかと思われまして。あと、何が悪いというふうなことにつきましては、市政報告等でもございましたけれども、なかなか人が、市内の企業さんにですね、高卒、大卒等も含めて人がなかなか集まらなないと、人材不足と、そういうふうな状況の中で、市としてどういうふうな対策をとるかというふうなことが課題と考えております。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） まさにそういうふうな課題があろうかというふうにして思っております。大事なのは、現状認識をどうあるべきかっていうふうなところをきっちりやっつけていかないと、新しい目標とか掲げても、それを、いいのか悪いのかってというのはだんだん分からなくなってしまうので、その辺あたりはですね、ぶれないできっちりやってもらいたいなというふうにして思っております。

そういうふうなことで、今いろいろなそのやり取りのことは答弁ありましたけれども、それに関連しておりますので、まず(2)番の方の質問の方に進みたいと思います。

(2)はK P Iについてです。

先ほどから話が出ておりますが、総合戦略では、重要業績評価指標（K P I）が示されております。また、その手法・事業内容も具体的に説明されて示されております。また、その以下の項目についてどうなっているかというふうなことをお尋ねしたいと思います。

①です。生産用機械・金属製品出荷額133億8,143万円、これ平成25年度分なんですけれども、それは今現在はどうなっておりますか。

②です。「お仕事支援センター（仮称）」による新技術開発等20件、これも5カ年分の累計で20件ということなんですけれども、それは現在どうなっておりますか。

③です。誘致等企業数6件、平成26年度までの累計が6件あったわけなんですけれども、これが16件、平成31年度まで16件にしようというふうな計画でございますが、現在はどうかしておりますか。

④です。「お仕事支援センター（仮称）」による起業件数30件、これは5カ年分での30件だと思いますが、現在どうなっておりますか。

⑤です。「お仕事支援センター（仮称）」による事業承継数20件、5カ年分の累計は、現在どうかしておりますか。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） それでは、(2)の重要業績評価指数（K P I）でございますけれども、これに関する御質問についてでございます。

①の平成25年工業統計での生産用機械・金属製品出荷額133億8,143万円についての現在の状況でございますけれども、公表されている直近のデータであります平成26年工業統計では、166億9,012万円となっており、金額にしまして33億869万円、率にして約25%の増加というふうなことになってございます。

続きまして、②の新技术開発・新産業創出についてでございますけれども、これは従来からの事業であります産学共同研究開発助成事業に加え、今年度新たに専門家派遣経費に対する助成制度であります企業経営力向上専門家派遣事業の創設、企業活性化アドバイザーが企業と公設の学術専門機関の橋渡しを行う体制を強化するなどしておりますけれども、市の施策に直接関連しての新技术開発等はなく、K P Iの増加はございません。

続きまして、③の誘致等企業数についてでございます。

総合戦略においては、誘致等企業数を平成31年度までの5年間で10件増加させることを目標としております。この場合の誘致等企業数とは、市外からの誘致企業はもちろんのこと、市内事業所においても、市工業振興条例を活用するなどした新規分野や規模拡大等による工場の新設等も対象とするとしてございます。したがって、総合戦略策定後の誘致等企業数は9社となっております。また、市では、東京にあります秋田県企業立地事務所に職員を派遣しているほか、首都圏で開催の懇談会や企業訪問をトップセールスで行うなど、今後とも市外の企業についても積極的な誘致活動を継続してまいりたいと考えてございます。

続きまして、④起業・創業支援数ですが、商工会と共同開催したにかほ創業塾の受講者による起業が1件、移住相談者の起業が1件となり、合わせて2件の増加となっております。

続きまして、⑤事業承継について、秋田県立大学と連携しまして実践後継者育成講座を実施しており、昨年度の受講者が4名、今年度6名で、いずれも事業承継等を具体的に検討中の事業所等からの参加でございましたけれども、期間中に事業承継を果たした実績については、市の方では把握してございません。結果的にゼロ件というふうなことになってございます。以上です。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） 詳細な答弁の方ありがとうございます。

まず、生産用機械・金属製品出荷額、これは僕が予想してたよりもはるかにすごい数字だなというふうにして思っております。また、達成されているもの、あるいは達成されていないもの、5分の1というふうな区切った場合なんですけれども、そういうものがあることがよく分かりました。もちろん総合戦略ではですね、私が質問した以外のところ、商工業のサービスであったり、農業であったり、漁業であったり、様々な産業のものがあると思います。それに全般に通じるものでございますけれども、それぞれやはりその原因と、それからその対策、そういうふうなものをどう分析をしていって、あるいはどういうふうな修正を加えていくか、これが非常に僕は大切になっていくのかなと。まさにそれがP D C Aであろうというふうにして考えております。私が申し上げるまでもなく、釈迦に説法になってしまいますが、P D C Aというのはもともと生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に行う手法として、ウィリアム・エドワーズ・デミング博士という有名な方ですけども、その先生が提唱された考え方でございます。P D C Aは、プラン、ドゥ、チェック、アクション、そ

それぞれの頭文字を並べた言葉であることは、御存じのとおりかと思えます。プラン、これは計画ですよね。ドゥ、実行。チェック、評価。アクション、改善。こういうふうなことの中で何より大切なのは、僕は情報の収集だろうというふうにして思っております。先ほどの答弁では把握してないというふうな項目もございました。これが僕はやはりうまくないんじゃないかなと。やはりこれは把握してなければならない。K P Iを掲げている以上、そういうような把握、そういうような情報の収集、そしてそれに対してどうあるべきかということは、常にやっつけていかなければならないというふうにして思いますが、今お答えいただいたそういうふうな、まあ五つの僕、項目について質問したわけなんですけども、それに対してどう評価をして、それから今後どういうふうにしてやっつけていこうというふうにしてお考えでしょうか、お尋ねいたします。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） これまでの数値等に関しまして、それぞれそれなりの数字もありますけども、全くゼロというふうなこともございます。それに対してですね、市でもいろいろな事業を、対策といいますか、そういうふうな事業を行っているわけでございますけども、それがなかなか結果に結びつかないというふうなことで、やはり情報収集等も必要でございまして、どういうふうなことが効果的で、どういうふうなことが効果が出ないのか、そこら辺をですね、やはり色分けをしまして、いろんな皆様から御意見をお聞きしながら、関係機関と連携というか、いろんな商工会等もございまして、そういうようなところから情報収集して、効果的な事業を今後また検討しながら遂行していきたいと考えてございます。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） ただいまの答弁、ちょっと私は納得はちょっとできないなというふうにして思いますが、まずはですね、1年経過してるわけです。その中で、これからどういうふうにしてやっつけていこうかというところを、やはり今まさにそれをこうやっつけていかなければならない、この総合戦略っていうのは、御存じのとおり人口減少、その対策として国が推し進めて始まったわけです。この人口減少に対して、常に行動を起こさなければならない。その中で、まち・ひと・しごと、その総合戦略っていうふうなものが生まれてきたと私は認識しております。その人口減少の、僕は根幹となるのは、僕はやはり産業の創出、そこによる雇用の創出しかないのかなというふうにして思ってるわけですね。そういうふうな中で、ぜひですね、それらを、今のこの検証をしていってですね、具体的に早急にスピード感を持って対応してもらいたいなというふうにして思っております。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

(3) 昨年12月の定例議会において、私は、このにかほ市まち・ひと・しごと総合戦略における、お仕事支援センターについて質問をいたしました。そのときの市長の答弁は、こうでございました。いろいろな課題について、ワンストップの形の中で、その対応をできるような取り組みを想定をし、新年度、つまり今年度には、そういう組織を立ち上げて取り組みをしてまいりたいと思っております、との答弁をいただきました。お仕事支援センター（仮称）の役割が、今までのそのやり取りの中でも非常に重要なキーポイントになっております。ということが分かっております。総合戦略活動の中心的役割を果たすことになっておりますが、昨年までは仮称でしたが、現在はどのような名称で、

それがどこにあり、この1年、誰がどのような活動をして、具体的にどのような成果をあげてきましたか、質問いたします。

●議長（菊地衛君） 答弁、市長。

【市長（横山忠長君）登壇】

●市長（横山忠長君） 総合戦略を掲げてK P I、これを実現するために職員ともども頑張っているわけであります。ただ、なかなかそのK P I 掲げたものを100%に近づけるといのは、なかなか今の状況からして難しい面もございますけれども、例えば新規の仕事をやりたいということで工場を建てたい、そういう場合についても、我々が職員ともども地権者にわたって、そして用地取得をスムーズにしたり、あるいは、それぞれの企業がこういうことをやりたいけどもどうなのかという形のを相談を受けたときは、一生懸命相談に乗りながら、そういう適地を探して、そして支援もしてるわけです。ですから、先ほど来、部長話したように、このK P I を実現するためにこれまで1年間の中で最大限努力してきましたし、また、これからもそうした努力を積み重ねながら、この雇用の創出が人口の減少に少しでも歯どめをかけるような形をつくり上げていきたいと、そのように考えております。

そこで、3番のお仕事支援センター（仮称）の活動・成果等についてでございます。

総合戦略で掲げた基本目標の実効性を高めるために、仕事面などを総合的に支援する体制が必要なことから、その基盤となる横断的な取り組みの一つとしてお仕事支援センター（仮称）でございますけれども、位置づけて、企業の総合的な競争力強化と企業が求める人材確保・育成の両面をワンストップで担える体制を整備しようということで、このお仕事支援センター（仮称）を挙げたわけでありますが、これについては、本年4月、市の行政組織を再編いたしまして、これまでの商工課を商工政策課として、商工業の振興業務に加え、ふるさと創造班を創設し、雇用対策の強化等を担う体制を整備したところでございます。これに伴い、総合戦略の一部の文言を改正いたしまして、お仕事支援センター（仮称）の創設を商工政策課の創設としたところでございます。今年度主な目標としては、平成29年度に申請予定の地方創生推進交付金の事業計画の策定に当たりまして、市役所の全課長を構成員としたふるさと創造会議を立ち上げたところでございます。そして、5月30日に第1回の全体会を開催して、8月31日まで10回の分会を開催し、今後展開すべき事業を検討してまいりました。また、9月28日には、それらの事業を部長会議に提示をいたしまして、いろいろ議論して、そして29年度の予算に反映したいと、そのように考えているところでございます。したがって、具体的な成果は見えないものの、従来の施策の充実と来年度からのふるさと創生関連事業の成功に向けて、市役所内の横断的かつ、つながりをなお一層強め、各項目のK P I 達成に向けて取り組みをしてまいりたいと、そのように考えているところでございます。

また、本年度、商工政策課商工振興班では、従来の施策に加え、成長産業分野のセミナーや研修会の開催、企業が展示商談会に出店する際の助成制度の強化、親子職場見学会の開催、若者の職場定着セミナーの定期的開催等を実施しているほかに、企業への専門家派遣事業、企業が都市圏での就職面接会に参加する際の費用の助成などを創設しております。また、ふるさと創造班では、無料職業紹介所の設立、移住フェア等の事業実施、にかほ創業塾の開催、起業・創業の専門家の専属契

約制度の創設、ポータルサイトの立ち上げによる啓発等を実施をしているところでございます。こうした形で、1年目ですがいろいろな形でこれが実となるのかは今のところ分かりませんが、まずやってみようということいろいろなことを取り組みをしている状況でございます。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） 市長から答弁いただきました。いろいろね、その数値的なところ、僕はそれは達成するもの、達成できないもの、これはあってそれは当然だというふうにして思っています。いろいろ情勢とか変わってきますし、要は、そこでどういうふうな現状認識を変えていって、今の現状をどう認識をしていって、どういうふうな修正を加えていくのかっていうのは非常に大切なことだと思っております。また、答弁の中では、商工政策課商工振興班というものがそれにかかわるというふうな答弁でございました。そうしますと、例えばこの総合戦略、こちらのところの中にいきますと、お仕事支援センターといろいろこう出てくるわけなんですけども、お仕事支援センター（仮称）による新技術開発等に10件というようなことがありますけども、例えば例にすればですね、これは、じゃあ商工振興班による技術開発になってしまうのかというふうな危惧を、ちょっと私はね、今の答弁で感じました。つまり今までの商工課の看板のつけかえではないかと。今までやってきたことと何が違うのですか。くしくも市長の方は、横断的な取り組みが非常に大切だ。僕も全くそのとおり、意見を同じくするところです。そして、その中で全課長さんによるいろんな会議を行っている。つまりこれは、行政側の、当局側の方の話であって、僕はこういうふうな総合戦略とか産業というのは、その行政の枠を超えたものでなければならぬのかなと。それの方が、むしろもっと効果的になっていくのではないかなというふうにして思っております。そういうふうなところでの、僕はお仕事支援センターというふうなものをイメージしてあったんですけども、ちょっと私が考えていたお仕事支援センターと違うので、もちろんそれは違って当然なのかもしれないけども、ちょっとがっかりしたところでございます。

その中で、まずちょっと話をちょっと戻しますけども、僕はこのお仕事支援センターによる例えば起案件数何件とかっていうふうなところが、商工政策課によるっていうふうになってしまうっていうふうなことについて、ちょっと違和感を非常に思ってしまうんですけども、その辺あたり、例えばこれから変えていくとか、あるいは、もっとお仕事支援センターっていうふうなもの、その商工政策課というふうなものではなくて、何か別なものに変えていく、成長させていくっていうふうなお考えはありますか。

●議長（菊地衛君） 市長。

●市長（横山忠長君） この総合戦略そのものについては、行政の一つの取り組みの方法としてこの戦略をまとめたわけですから、いろんなものを通して、企業、あるいは事業者、そういう方々を巻き込んで、そしてKPI、これを達成しようという形であって、行政が一人相撲をしているという形ではありませんので、いろんなことを取り組みをしながら、例えば工業振興会に働きかけたり、いろんな団体に働きかけたりして、先ほど来申し上げておりますようにKPIを達成していきたい。ただ、今1年目です。これからもう4年あります。その中で情勢が変わってくれば、当然、この総合戦略をまた見直していかなければならない、そのように思っておりますし、当然そう

いうサイクルを積みながら、最終的にK P I という形になりますけれども、なかなか思うとおりにいかない場合もありますので、そういうことについてもやはり見直しをする時期は必ず来ると、そのように考えています。

●議長（菊地衛君） 渡部幸悦議員。

●2番（渡部幸悦君） 当然見直しというのはかけなければならない。まさにそのためのP D C A サイクルで僕はあるというふうにしては思っております。そうしますと、僕は実をいうと、この総合戦略、昨年こう見たときに、一番最初に思ったのは、やはりここのお仕事支援センターのキーパーソンがものすごく重要になってくる。例えばそれが、いろんなほかの自治体であれば外部からの人をやったりとか、いろんなその手法がこうあるとは思いますが、で、市長も今のままではだめだというふうにして多分思っていると思いますし、これからいろんなことを変えていかなきゃならないというふうなところでは、私と多分意見を同じくするところではないかなとは思いますが、そういうふうな方向性や、そういうふうなことをきっちり僕は取り組んでいかなければならないかなというふうにして思ってるんですね。今のなりたい姿、にかほ市がこうありたい、そういうふうな姿があって、今の現状がある。そのギャップを埋めていくっていうことが、僕は戦略・戦術だと思ってるんです。私も一企業人として、会社経営ではそういうふうにしてやっていきます。この姿になりたい。そして、それに対するギャップがある。僕はそれは壁とは思わないんですね。ギャップって言うてるんです、社員の方には、そのギャップをどうやって埋めていく。そのあり方っていうのを戦略として捉えて、実行しております。ですからそれは、そのギャップっていうのは常に変化していくわけですね。ですから、そのP D C A サイクルっていうのが非常に重要になってくるわけで、そういうふうな中で、僕は今の現状を正しくやはり認識しなきゃなんない。そういうふうな中で、ぜひですね、このお仕事支援センター、その商工政策課っていうふうな形では、ごめんなさい、商工政策課ではなくて、別のものにアップグレードしていくっていうふうなことをですね、ぜひ取り組んでもらいたいなというふうにして思っております。

今のK P I のその数字は、これはこれでしょうがないと思うんですよ。それは結果ですし、要は一番大切なのは、これからどうするかっていうふうなことになっていくし、もちろん今の聞いた数字の中では、非常にこの達成しているものがあるし、それをはるかに超えたい業績を残している数値もありますし、で、いい業績は残してるっていうのであれば、それをどんどんどんどん伸ばしていくべきだと思いますし、そこのところの数字っていうのは、特にさっきの工業出荷額に関しましては、もっともっと、これはもう200億ぐらいに持ってっても問題ないんじゃないかなというふうにして思いますし、そういうふうなところをどんどんアップグレードしてもらいたいなというふうにして思っております。

今朝の新聞、魁新聞の方にもですね、国の方も、こちらの方は今月ですね、総合戦略の見直しをするっていうふうな記事が、小さい記事でしたけども載っております。そういうふうなことを常に行っていかなきゃなんない。いつも、ある一定の1年間とかという大きな区切りではなくて、もう四半期ごととかそういうふうなレベルでですね、あるいはもう1ヵ月ごとぐらいですね、そういうふうなチェックっていうふうなものを行って、不断に取り組んでいってもらいたいなというふうにし

て思っております。

最後になりますけども、こちらの方の計画、こちらの方の見直しっていうのは、いつ頃、国の方ではね、今年やって、また春ぐらいにそれをこう提示するっていうふうな記事の内容だったと記憶しておりますけども、にかほ市の方では、このにかほ市まち・ひと・しごと総合戦略、こちらの方の見直し、改訂版っていうふうなことの計画の方の有無をお聞かせください。

●議長（菊地衛君） 市長。

●市長（横山忠長君） 究極の課題は、やはり人口をどう歯どめをかけていくか、これです。ですが、やはりその現状からして、人口に歯どめをかけるっていうことは今のところではできません。ですけども、ある程度人口が減っても、どうこの活力のあるにかほ市をつくっていくか、これが課題です。ですから、やはりその課題をクリアしていくためには、やはり産業振興によってここに雇用が生まれて、そしてここに定着すると、それによって人口問題、あるいは少子化問題、これに少しでもいい方向に行くということで我々は全力を傾注しているわけですが、いずれにしても今の計画については、2年ぐらい経過した段階でもう一回状況を分析しながら、2年というのは、もう1年経過してますから、この後1年ぐらい状況を見て、その上でこのK P Iがいいのか悪いのか、達成できるのか、もっと上げることができるのか、そういうことも含めてこれからさらに情勢を分析してまいりたい、そのように思います。

●2番（渡部幸悦君） 終わります。

●議長（菊地衛君） これで2番渡部幸悦議員の一般質問を終わります。

所用のため休憩します。再開を10時50分といたします。

午前10時37分 休 憩

午前10時50分 再 開

●議長（菊地衛君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

5番奥山収三議員の一般質問を許します。5番。

【5番（奥山収三君）登壇】

●5番（奥山収三君） 今回も一番最後の一般質問になりました。質問の前に先立ちまして、訂正をお願いいたします。質問の要旨の本文の中のですね、上から2行目、一番最後の方です。「また小道」って書いてますけども、これは「木道」、木の道に訂正してください。よろしく願いいたします。

それでは、今回は観光面の安全対策について（緊急時連絡の充実化）というタイトルで質問させていただきたいと思っております。

私は今まで、にかほ市の観光について再三にわたり質問してまいりました。中島台においては、バスの駐車場、また木道整備等々、市の迅速な対応で、より充実したにかほ市における重要な観光資源となっております。今回は、その充実化をさらに進めることで、より安心・安全、また快適に

観光で訪れた方々が過ごすことができますことを願い、質問いたします。

昨年8月に、この中島台で転倒事故が発生し、ヘリにより救急搬送されるという事態が生じました。そのときの連絡等に多少時間がかかったようです。このように、観光地と言われる箇所での事故や不意の体調の変化を想定した場合、迅速な連絡、対応が必然的に求められることです。また、今年例年になく熊の出没が多く確認され、熊による被害も続出し、当秋田県では死者も多く出て大きな問題となっております。このにかほ市では、熊が海岸でも出没が確認されており、中島台近辺では例年になく熊の出没が確認されているということです。観光客の生命にかかわる不慮の事故、または体調不良、さらには熊からの被害等を想定し、より充実した緊急時の連絡網が必要欠かさざることと思います。聞きますれば、管理棟と案内人との間は、トランシーバーによる無線で連絡を取り合えるということですが、案内人のつくグループや団体ばかり訪れるわけではなく、案内人のつかない個人やグループ等の来訪もたくさん見受けられる中、訪れる方の携帯電話使用による緊急時の連絡につき、以下質問いたします。

(1) 昨年の夏に生じた事故に対して、どのような方法で連絡を取り、対処されたのか、具体的にお伺いします。

●議長（菊地衛君） 市長。

【市長（横山忠長君）登壇】

●市長（横山忠長君） それでは、奥山議員の御質問にお答えをいたしますが、御質問の各項目にわたって担当部長からお答えをさせます。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） それでは、御質問の観光面の安全対策についての(1)、昨年の夏に生じた事故に対して、どのような方法で連絡を取り、対処されたのかについてお答えをいたします。

はじめに、昨年8月19日に発生しました事故の概要について御説明いたします。

来訪者は東京都のクラブツーリズム42名のツアー客で、市の観光案内人2名により2班編成で午後1時30分頃入山し、中島台レクリエーションの森を散策しておりました。午後2時30分頃、そのうちの女性、53歳の方でございますけれども、その方があがりこ大王に見とれ、デッキの段差に気づかず転倒し、切り株に頭が当たり、負傷出血しました。その時点では傷は軽いものと、血止めの応急をしまして管理棟まで帰ろうと200メートルほど、約10分間ぐらいですけれども、燭台ブナの地点まで歩いていましたが、出血が止まらず移動を中止し、待機しました。2時41分、待機してすぐでございますけれども、案内人が携帯電話で消防署に救急車の要請をした後、トランシーバーで管理人に事故の発生状況と消防署に通報したことを連絡しております。2時59分、救急車が中島台駐車場に到着。3時ちょうど、救急隊が入山を開始し、3時8分、傷病者と接触、応急処置後、たんかで搬送しながらドクターヘリを要請してございます。3時38分、救急隊が管理棟に到着。3時50分、由利組合総合病院へ情報提供。3時56分、ドクターヘリ現場着、フライトドクターの観察後、4時21分、ドクターヘリ離陸。4時29分、由利組合総合病院へ到着してございます。なお、ドクターヘリは秋田日本赤十字病院から出動しております。以上が当日の事故対処方法でございます。以上です。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） ありがとうございます。時間までの具体的な内容で、この際ですね、一つだけ再質問したいんですけども、案内人が携帯で電話連絡したということ、先ほどの話では。それはどちらの会社の、例えばa uなのかドコモなのか、それは分かる範囲でお願いします。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） 携帯電話の種類でございますけども、a uでございます。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） 分かりました。それで納得しました。これは後でまた質問に出てくるわけですけども、中島台はa uは多少通じるところがあるんですが、ドコモはまずほとんどといっていいほど通じはしませんでした。僕も幾度か試してみたんですけども、僕自身ドコモですので、全く通じなかったということがあります。

そこで、次、2番目に移ります。この2番に入る前にですね、今年のですね6月19日ですか、私の学生時代の友人12名が、関東方面の方々12名が、ブナ林の新緑ツアーと称して、この当にかほ市を訪れております。そのときに中島台を私が案内し、その後、はまなすに宿泊しました。そのはまなすの宿泊したところの席で、懇親会の席です、このような話が出ました。あそこは、中島台は、何かあったときに連絡網どうなってるのかっていう、ある方がそういう質問を僕にされて、私は、a uはどうも通じる箇所があるみたいだけど、私自身はドコモなので、あそこはドコモは通じないというような話をしましたら、いや、やはり今どき、あれだけの観光客が来るのであれば、やはり何らかの形で、せめてa uといわずドコモも含めて通じるようなシステムを構築すべきじゃないかというような話が、大勢の方から出たことがありました。

そこで、この2番に移るわけですけども、訪れる方が携帯電話を使用する場合、中島台近辺は電波の状況がよくないようです。先ほど来お話しするように、a uを利用されている方は一部通じるようですが、ドコモとなると中島台よりずっと下の方まで下りて、民家のある近辺でようやく通じるようです。現在もそのような状況ですので、当事者、または同行者が迅速に連絡できるよう充実すべきと思いますが、市の考えをお伺いいたします。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） それでは、次に(2)番でございますけども、中島台周辺の携帯電話の通信状況が悪いことについて、当事者、同行者が迅速に連絡できるよう充実すべきと思いますがというふうなことの御質問でございます。

御質問のとおり、現在、当エリア内の携帯電話の電波、これはドコモでございますけども、電波状況については、一部を除き通じる場所が限定されている状況でございます。携帯電話につきましては、(3)番の質問事項の方で総務部長の方から答弁していただきますが、やはり全ての場所での利用は大変厳しい状況のようでございます。それらにかわる方法としては、現在市では、トランシーバーを全部で5台用意しております。1台は管理人、その他4台は、今回の事故のように不慮の事態に遭遇した場合を考え、観光案内人が団体の観光客に同行するときに持参し、管理人に連絡できるよ

うにしております。今後は、携帯電話の施設整備とあわせ、なるべく団体に観光案内人と散策していただくなど、訪れる方々に安全対策についても注意喚起を呼びかけしていきたいと考えてございます。以上でございます。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） 先ほどの答弁で、一部を除きということでしたが、これはドコモも含めてですか、それともa uに関してのことなのか、ちょっと確認の意味でお願いします。

●議長（菊地衛君） 商工観光部長。

●商工観光部長（地方創生政策監）（佐藤克之君） それについても、a uもドコモもですね、要は全部が通じるというふうなことにはなっていないというようなことでございます。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） 私が中島台に行っているんなことをやってみたんですが、ドコモの場合は、それこそどこでも通じなかったような気がするんですね。a uは先ほどから言ってるように、僕自身a uじゃないんですね分かりませんが、ドコモの場合は、温水路、あれから上になりますと、発電所ある近辺、あれから上になりますと、もうほとんどっていいほど通じることはなかったです。それは、たまたま高いところに上がれば通じたのかどうか分かりませんが、あの道路でやった範囲では、全然通じなかったということがあります。それで、先ほどの答弁ではトランシーバーが5台あるというようなこと、これは僕も管理人さんから聞いております。とはいえ、やはり先ほどちょっと話したようにですね、トランシーバーを持って案内する案内人、その方が、案内人がつくような観光客ばかりじゃないと思うんですね。ですから、そういう意味からしても、やはり何らかの形で、トランシーバーは決して意味がないということは言うつもりはございません。もちろんこれは団体客となると、当然そのような緊急事態が発生した場合にはトランシーバーか何かで迅速に対応せざるを得ないのは、これは当然だと思います。

そこで、個人でもですね行って何かあった場合に、本人、当事者がすぐ連絡できるような状態をつくるべきじゃないのかなということで、今回のこの質問になってるわけですので、どうなんでしょうね、トランシーバーを5台だけに頼る、個人で行った場合にはどうするのかということが出てきますので、次の3番に移ります。

市の方で携帯電話を使用するとした場合、これを想定した場合の電波等の調査をされたことがあったのかどうかをお尋ねします。

まず一つ目に、調査されたとすれば、その結果はどうだったのかお伺いします。

二つ目、調査の結果に対する対策を伺います。

三つ目として、調査されていないとすれば、今後調査する予定はないのかどうかをお伺いいたします。

●議長（菊地衛君） 総務部長。

●総務部長（危機管理監）（齋藤洋君） それでは、(3)①の調査についてお答えをいたします。

平成26年の夏頃に、携帯電話3社、これはNTTドコモ、a u、ソフトバンクの機器を使って、現場、現場というのは中島台の管理棟を目指しての話なんですけど、電波状況を確認しております。そ

れで、いずれの会社につきましても、管理棟に到着する前に電波が圏外になるという結果でございました。調査につきましては、中島台、そのレク森の範囲の中で、細かくこの地点、この地点、この地点という調査は行っておりません。あくまでも市の職員が3社の機器を持って、管理棟に向かつての電波調査というふうに御理解していただきたいと思えます。

それから、27年度におきまして、NTTから、当時鶴泉荘まで光ケーブルが行ってございましたので、そこから中島台のレク森まで光ケーブルを敷いて鉄塔を建てたらという御提案がございました。しかしながら、この場合、携帯だけで当時2,000万円、Wi-Fiも含めると2,700万円の事業費となることから、ほかに方法はないのか検討しておったところでもございました。そうした中で、今年度初めにNTTドコモの方で調査を行ってございまして、現状では、出つぽ付近を除き、ほぼ全コースで圏外となっておりますということでした。仮に鉄塔を建てた場合のシミュレーションも行っております。管理棟付近で鉄塔の高さを13メートル、20メートル、30メートル、この3パターンで測定をいたしました。30メートルの場合でも、樹木による電波の減退、要するに樹木に遮られて電波が弱くなるという事象が、それが大きいことから、エリア全体での利用は難しいという結果が出ております。これが①の答弁でございます。

続いて、次の②でございます。調査の結果に対する対策についてでありますけれども、今申し上げましたようにエリア全体のカバーが無理にしても、既設の基地局からの電波を利用して簡易的な中継局の設置によりまして、管理棟、駐車場、トイレ付近をエリア化することは可能であろうということから、現在、事業者と整備に向けて協議を重ねているところでございます。

③につきましては、今答弁したとおりでございますので省略させていただきます。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） ありがとうございます。②の調査の結果に対する対策という段階で、事業者との打ち合わせというか話し合いというか、そういう今後行いたいというふうなお話でしたけれども、これはちなみに大体いつ頃をめどとして考えているのか、もし分かる範囲でお答えできればお願いします。

●議長（菊地衛君） 総務部長。

●総務部長（危機管理監）（齋藤洋君） 民間事業者ということもございまして、必ずしも市当局の方の思いといいますか、それがそのまま酌み取っていただけるということでも、まして事業者さんの方の負担で行う事業でございますので、やるとすればですね、そういうことなので、事業者さんの方でその社内の年次計画の中に組み込んでいただければ、すぐ可能ということになるんでしょうけれども、そういったことも含めて協議の中で、早い段階で実施していただけるように協議をしていきたいということでございます。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） ありがとうございます。今の答弁では、やるとすれば事業者さんの負担でもあるというようなお話でしたけれども、これ4番の方の質問にも関連してくるわけですが、ちなみにですね、あれですか、例えば市、県、もしくはその事業者、この三者との出し合いというか、そういうその費用の出し合いということは現在は考えていないのかどうか、それをお伺いいたします。

●議長（菊地衛君） 総務部長。

●総務部長（危機管理監）（齋藤洋君） 自治体が負担するとなりますと、方法とすればIRUです、というやり方があるんですけども、この場合ですと、あくまでも自治体が施設を、環境を整備して、それを事業者さんに貸し付けるというような方法になります。補助金があるんですけども、補助金が対象になるのは、あくまでも居住者、住民ですね、居住エリアが圏外ということで、しかしながらその事業者さんの方では、投資効果を考えてなかなか事業化することができないと。しからば行政といったことで、あくまでも住民対策として行政が整備する場合には補助金が出るというものでございます。ただ、今回のケースは中島という居住エリアでもございませんので、補助金が使えないということで、そういう市負担、あるいは県負担というところまでは考えられないということで、あくまでもNTTドコモさんの方の事業としてやっていただくという形をとればということで考えております。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） 分かったような分からないような、ちょっとあれですけど、要するに居住エリアでなければなかなか補助金の申請はできないのではないかとということだと思っております、結果的にはですね。事業者サイドでも、居住エリアでないことには投資効果がないということだと思っております。

それです、4番に移るわけですけども、これの、今3番の連続みたいなもんですけども、鉄塔を設けることによって、今答弁で話されました30メートルぐらいの鉄塔を建てれば、弱いなながらも多少カバーできるのではないかとというような意味の答弁だったと思っておりますけども、どうなんでしょうね、これ、何らかの形でですね補助はなかなか使うのは無理だというような答弁されてるわけですけども、逆にこの安全対策を考えた場合には、何かこう、どう言うんでしょうね、知恵出して何とかならないものなのかどうなのか。市の方で、確かに2,000万円からかかるというような話ですけども、2,000万から2,700万というようなことを、かかるとおっしゃってましたけども、それを何らかの形でこうやってみるっていうか、考えてみるっていう、考えるだけでもどうなのか、その点をもう一度お願いします。

●議長（菊地衛君） 答弁、市長。

【市長（横山忠長君）登壇】

●市長（横山忠長君） 奥山議員がお話のようになかなか携帯が通じないということで、これまで私なりに取り組んできて、NTT、あるいはNTTドコモの方にお問い合わせをしてきました。そして、先ほど総務部長がお話のように、30メートルの鉄塔を建ててもなかなか難しいと、エリアをカバーするには。だとすれば、簡易な形の中で、駐車場付近、ここに簡易な鉄塔を建ててやることによって、管理棟、駐車場、あるいはトイレあるエリア、このあたりぐらいまではまずカバーできるだろうというふうなお話でしたので、お客さんが大変入ってましたからドコモを使っていると。ところが、ドコモさんの方で鉄塔を建てて、鉄塔というよりも簡易なものを建てて、先ほど申し上げたエリアを電話が使えるような状態にしてくださいということで、これまで進めてまいりましたけれども、感触としては、NTTドコモさんの方でやってもいいよと、やってもいいよという形までは来てま

すけども、やはり全体の予算の中でいろんなほかのところの取り組みもしているわけですから、ですから順番的な形の中でどうなってくるのか、このあたりはもう少し強く働きかけて押してですね、少なくとも今の申し上げたようなトイレ、管理棟、駐車場、このあたりのものはカバーできるようなものをまずやってみると。当然ながら全体のエリアをカバーしようということで、まさかレク森の中に30メートルもあるような鉄塔をあちこちに建てるわけにはいきませんので、これは困難な話ですので、まずはエリアを限って、そういう不感地帯を解消しようという取り組みをしておりますので、御理解をいただきたい。場所としては、その鉄塔まではならないと思います。あくまでもある程度の高さの、電柱クラスのやつにアンテナつけるんだと思いますけども、それは当然ながら駐車場付近、こういう形になるのではないかなと思っております。

●議長（菊地衛君） 奥山収三議員。

●5番（奥山収三君） ありがとうございます。私の方も、この4番の中にですね、現在の場所、駐車場付近に設置するっていうようなことも考えてたわけですので、ぜひですね、NTTドコモさんとの協力を得てですね、一刻も早くその推進、緊急時の連絡網が充実化されることを切に望んで質問を終わります。

●議長（菊地衛君） これで5番奥山収三議員の一般質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会いたします。

午前11時19分 散 会
